

%, 14.11%, 10.88%, 1.81%である。然し靜かに考察するならば、誇大するには値しない。舊集團性は新法によつては8分され、何分かの發展とも見る。

群型研究も之の程度では深い興味も無い。毎回繰返す如く、緯度と出現期間の関係、或は群型の變化と緯度との關係等を研究して見たい。後者の方法に付ては現在の私の觀測範圍で、半ば困難でないから、後日に於て出現回數頻繁ならざるものから着手する積りである。前者は他の觀測者に依頼して究明する外には手段なく、課員諸氏の御奮起を要望する。

**白斑** 重要な主題だが、積極的に手を付けない。素人に出来る面白い性質の探索法も確かに残されてると考へる。私は他の觀測者程白斑を認める事は、(理由は不明だが) 余り多くない。

**結論** 今回の此の長たらしい報告中で、格別に主張したのは、視相が日中、午後に於て豫期以上に悪くない點である。尙、先頃發表した黒點計算論は、今の所、賛否判明せず、反響も尠いが、ことの性質上無理のない事と思ふ。しかし新計算法も考案の結果、比較を發表したい。狭い觀測分野と見えても廣く、まだ、まだ研究の未開拓地は盡きない。(終)

### 天 界 正 誤 表

	誤	正
<b>第254號 (昭和17年第8號)</b>		
第244頁 下ヨリ5行目	明治16年に	明治20年に
第245頁 1行目	1504	1904
<b>第255號 (昭和17年第9號)</b>		
第284頁 21行目	佐金兒譯	佐登兒譯
第292頁 星座表 8行目	Sceptre	Sceptrum
〃 〃 9行目	Seepttrum	Sceptrum
第307頁 1行目	May, 1942.	June, 1942.
<b>第256號 (昭和17年第10號)</b>		
前附第〔1〕頁 天文寫眞説明書、ブルツクス彗星, 1行目	ブルクス	ブルクス
第322頁 下ヨリ13行目	箸で	針で
〃 〃	いつも戒めのやうに	いつものやうに
第324頁 下ヨリ1行目	と思ふ。	と云ふ。
第335頁 下ヨリ8行目	Leonarda	Leonardo
第339頁 下ヨリ9行目	層の	その
<b>第257號 (昭和17年第11號)</b>		
表紙第4頁 觀測部水星金星班長	大阪市 青木章	木邊成麿
第378頁 遊星面課, 水星金星班長	青木章	木邊成麿